

Title	彝族 <瑪牧> 文化における道德教育思想
Sub Title	Moral educational thoughts in Yi people's oral literature Hmat mu
Author	丁木乃(Dingmunai) 高橋, 幸吉(Takahashi, Kōkichi)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション (Keio University Hiyoshi review. Language, culture and communication). No.51 (2019.) ,p.143- 153
JaLC DOI	
Abstract	彝族のは道德教育の典範となる伝承で、彝族社会において重要な位置づけと影響を持ち、多方面にわたる社会的機能を備えている。彝族文化は文治・徳治・礼治・善治・自治の「五治一体」の道德教育思想を内包している。そのうち文治はの主旨と出発点であり、徳治はの精髓と道德のアンダーラインであり、礼治はの偉大な徳と最高の法律規則であり、善治はの核心理念と道德の根本理念であり、自治はの帰結であり最高の道德的境地である。「五治一体」とは多元的統治であり、凝集して力を合わせ、彝族社会における道德の中で互いに浸透し、互いに補い合い、互いに関係し、彝族社会の調和と安定に対して欠くべからざる積極的作用を有している。彝族文化の豊かな道德教育思想の資源は、彝族社会の管理のために新たな道筋を見いだすものである。
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20191231-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彝族〈瑪^マ牧^ム〉文化における道德教育思想

著：丁木乃
訳：高橋幸吉

本論文は西南民族大学西南民族研究院所属で、彝族への支援活動を行うNPO 成都陽光山脈社会服務工作中心主任である丁木乃氏の論文「彝族“瑪牧”文化中的道德教育思想研究」を和訳したものである。本文中、訳者による補足は〔 〕で示す。原注は冒頭に※を付して示した。

論文要旨

彝族の〈瑪牧（彝語音“hmat mu”〔マム〕）〉は道德教育の典範となる伝承で、彝族社会において重要な位置づけと影響を持ち、多方面にわたる社会的機能を備えている。彝族〈マム〉文化は文治・徳治・礼治・善治・自治の「五治一体」の道德教育思想を内包している。そのうち文治は〈マム〉の主旨と出発点であり、徳治は〈マム〉の精髓と道德のアンダーラインであり、礼治は〈マム〉の偉大な徳と最高の法律規則であり、善治は〈マム〉の核心理念と道德の根本理念であり、自治は〈マム〉の帰結であり最高の道德的境地である。「五治一体」とは多元的統治であり、凝集して力を合わせ、彝族社会における道德の中で互いに浸透し、互いに補い合い、互いに関係し、彝族社会の調和と安定に対して欠くべからざる積極的作用を有している。彝族〈マム〉文化の豊かな道德教育思想の資源は、彝族社会の管理のために新たな道筋を見いだすものである。

1. はじめに

彝族は過去においても現在においても、道德教育を重視し続け、人々に正しい倫理規範と価値観を扶植することを重んじてきた。人々に彝族の氏族概念を樹立させ、氏族の特徴を認識させ、氏族の利益を守り、氏族制度を遵守させてきたのである。〈瑪牧（彝語音“hmat mu”〔マム〕）〉¹⁾ 文化の価値観・人生観・道德観・氏族観・社会観を人々の魂に注入し、彼らを一人前

1) 本論文では伝承とこれが内包する文化を指して〈マム〉の表記を、後世に整理され出版された書籍を指して『マム』の表記を用いる。

の社会人たらしめる。〈マム〉は長い間代々伝えられ、誰もが知っている慣れ親しんだ伝承である。彝族の民間で広く流伝し、彝族の社会道徳に広範囲な影響を及ぼしている。その影響力は深く厚く、彝族社会の中を貫いている。その道徳思想は民族化・生活化・儀式化・規範化などの特徴を備え、人々は〈マム〉を思想や行為の手本とし、生活の規則とし、道徳の規範とし、社会のよりどころとしてきた。後の世代への教育と道徳心の涵養に対して、重要な道徳教育の働きと現実的意義を備え持っている。彝族地区での思想道徳建設を強めるには、彝族の優れた伝統文化の中からその養分を汲み取るべきであり、彝族の優れた伝統文化が内包する思想観念・人文精神・論理道徳を深く掘り下げ、時代の要請に結びつけて継承し刷新するべきである。彝族の〈マム〉をしっかりと語り、人々に家・帰属集団・国を愛することをしっかりと教え、〈マム〉文化の真善美を宣揚することは、彝族地区の社会整備のために尽くすことに繋がるのである。

2. 〈マム〉の基本的内包と価値

彝族の〈マム〉は一連の道徳教育の典範となる伝承であり、彝族社会において重要な地位と影響力を持ち、多方面にわたる社会的機能を備えている。2014年11月、彝族の〈マム〉は国务院の批准を経て第四期国家級非物質文化遺産の代表項目にリスト入りした²⁾。〈マム〉は彝族社会内での、人と自然・人と人・人と社会関係の行為の規則であり道徳的規範である。これは彝族の人間にとって思想道徳の重要な尺度であり、豊かな道徳教育的価値を備え、今日に至るまで彝族の社会生活において重要な働きを有している。人間の全ての活動の最も核心的な問題はすべて人の問題であり、人が作り出した社会の問題ではない。このため、国家管理の背景下において、社会管理を新たな視点・新たな理論・新たな方法とし、彝族〈マム〉文化の内包を検討することは、彝族地区社会の道徳思想教育の建設に対して重要な現実的意義を備えている。

2.1. 〈マム〉の基本的内包と研究の現状

彝族の〈マム〉は『瑪牧特依』とも称される。これは著名な彝族の教育の典範であり、影響が深遠な彝族の倫理学の教科書であり、希少な道徳の典範である。『瑪牧特依』は彝語の書名である『hmat mu tep yy [マムテーイ]』の音訳から名付けたもので、このうち“hmat [マ]”は教育・訓導・忠告の意であり、“mu [ム]”は智慧・善良・優良・賢明有徳の意である。“tep yy [テーイ]”は書籍あるいは典範の意味であり、“hmat mu [マム]”は教育、勸善であるので、『マムテーイ』とはつまり「人々を教育し人として処世するための典範」であり、すなわち

2) 「国务院關於公布第四批国家級非物質文化遺産代表性項目名録的通知」2014年12月3日發布。本發布では10分類153項目がリストアップされており、〈マム〉は1. 民間文学に分類されている。
http://www.gov.cn/zhengce/content/2014-12/03/content_9286.htm (2019年8月30日閲覧)。

『勸善経』・『道德経』・『教育経』などと意識できる。その目的は人を教えて善に向かわせ、人々の道德行為を規範に合わせることである。〈マム〉は幼少期・児童期・少年期・青年期・成年期・老年期など異なる時期に、人が備えるべき思想道德について規定している。人々がしてよい事としてはいけない事、するべき事とすべからざることを教え、どのようにしてよくどのようにすべきか、どのようにしてはならずすべきではないかを教えている。人としての処世の道を述べているのである。

『マム』は彝族文献のうちの大衆文献に属し、その具体的な成立年代は不明である。だが清代には彝文字の木版本があり、前半部分は古人が残してきたもので、各種の抄本と大同小異である。後半部分は本書の印刷を主催した牟烏省者・土司烏谷³⁾が新たに増補したものである。嶺光電氏が本書を翻訳出版し、書名を『教育経典』と意識した。彝語文献の刻本は少なく、しばしば目にするのは『マム』と『勸善経』などであり、『勸善経』は道教の『太上感應篇』から来ている。刻本の出現はおそらく彝族の土司〔旧時、西北および西南の少数民族首領に与えられた世襲の官職〕が彝族社会を管理し、道德教育を推し進め、その他の民族の先進的な思想を学んで併せて彝族地区に広めるためであった。『マム』の刻本はまず彝族の土司によって発展してきたはずで、民間にその起源があるわけではないが、本書が現在まで彝族の民間で影響が強いだけに過ぎない。学术界の『マム』に対する研究は、異なる版本の収集・整理・翻訳・研究に主に集中しており、1977年から2019年の四十数年間で、『マム』に関する約20冊の著作が相次いで整理・翻訳され出版されている。さらにまた比較的多くの学術論文が、異なる角度からも『マム』を研究しており、豊富な成果を挙げている。

2.2. 〈マム〉の社会的働きと研究価値

凉山彝族の社会道德思想は、その言語文化・思考論理・人間関係・物質文化を土壌とし、彝族独自の価値観を映し出している。とりわけ〈マム〉の倫理道德思想は、凉山彝族の社会的価値基準を色濃く反映している。〈マム〉は彝族が世代を超えて伝承してきた道德の典範であり、民族性・階級性・大衆性・文化性・社会性・道德性・教育性・常識性・生活性および文学性など、総合的な特徴を兼備している。これによって優良賢明で文化的道德的人物を育てることを目標とし、人々の道德思想概念に影響を与え、人々の行為を規範に合わせ、彝族地区の社会秩序を維持している。〈マム〉は異なる段階・異なる集団・異なる年齢・異なる性別の人に、異なる要求と規則をそれぞれ提言している。しかも人々の日常生活と緊密に結びついてひとつになり、生活に溶け込み、口ずさみやすく、そのうえ速やかに道德性を強めることが出来る。〈マム〉によって人々は社会生活のなかで各種の道德教育を受容することになり、彝族地

3) 姓が「牟烏省者」、名が「烏谷」。「土司」は後述する官職名。通称烏谷土司、漢名は嶺真榮。生没年不詳、清末～民国初の人物。黄建明「彝族『教育経典』浅論」(『民族教育研究』2001年第2期)等参照。

区の社会において道德教育の機能を發揮しているのである。人々の心のうちにある信念や習俗、社会の輿論を通して人々の行為を制約し、身を慎み徳を養い、社会の公共秩序を自覚的に維持するのだ。〈マム〉は人と人との間、および個人と社会の間の相互関係を調整することに対して重要な働きをしており、涼山彝族の社会生活を正常に営ましめ、社会秩序が相対的に安定している重要な精神的力なのである。

〈マム〉は彝族传统文化の精髓であり、彝族社会の倫理道德の規準である。その内容は文化的で調和がとれ、誠実善良、勤労団結などの思想を内包しており、人間の真善美の具体的表現である。彝族は代々道德教育を非常に重視してきた。〈マム〉は彝族の道德的典範として褒め称えられ、その核心の思想は「徳治」であって、道德を以て人を感化教育し、「仁善」を導いて、個人の品性や人徳を養うことに注力している。その主旨は人々が善に従い善を行うよう教育し、道德と情操が高尚な人とするにあり、一種の「至善」という道德的境地を追求している。〈マム〉は一個人の成長の過程によって、異なる成長段階が備えるべき「徳」と「行い」を強調し、人々がどのようにして有徳の人となるべきかを教導していて、人々の価値観・人生観・道德観に深遠な影響を与えている。〈マム〉は彝族千百年來の道德による統治の思想の源泉であり、人々の思想道德と意識的行為を規定することにおいて、人と人との間、および人と社会の間を協調させ、彝族社会の安定と人間関係の調和に対して、代えがたい重要な役割を果たしている。〈マム〉は彝族の社会・歴史・文化・民俗などの状況の記述において一次資料に近い内容を備えており、最終的な目的は道德教育を通して彝族地区の社会の調和と安定を実現する事である。〈マム〉は思想が奥深く、影響が深遠で、内包は豊富であり、民族学・教育学・哲学・倫理学・文学・民俗学・社会学などの内容に涉って、重要な文化伝承価値と学術研究価値を備えている。

2.3. 彝族〈マム〉文化中の道德教育思想

彝族は古来より道德教育を非常に重視してきた。〈マム〉は彝族の人々の道德の典範であり、先達が後人を教育し、智者が民衆を教育し、これによって蒙を啓き、理や徳を明らかにし、行いによって導き、法に習うという目的を達するものである。〈マム〉は彝族なら誰もが知っており、婦人や子供でも皆知っている『論語』のごとき存在である。人々の思想を整え、人々の行いを戒め、人間関係を協調させ、社会的行為を規範化し、社会的矛盾を調停し、社会の秩序と安定を維持することに対し、代えがたい働きを有している。

2.3.1. 文治は〈マム〉の主旨であり出発点

彝語の“hmat [マ]”とは教育・訓導・忠告などの教育方法によって人を教化することであり、“hmat mu [マム]”とは道德・教育・善導、つまり人々の人格や処世を教育するである。これは〈マム〉の主旨であり出発点であり、主要な点は「文化教育」思想、すなわち「文治」

思想である。人は同じでは無く智慧も異なり、知識にも差異があると〈マム〉は見なす。例えば「知識について論ずるなら、君主の知識は千のはかりごとを以てし、調停人の知識は百のはかりごとを以てし、祭司の知識は牛の毛のように多い」と、人間が知識を学ぶことの重要性を強調している。学習によってのみ物事を行い身を処することができ、知識を学ぶことの尊さは他者に学ぶことであると述べる。「君主は執政が遅く、祭司や調停人の意見を受け入れる。調停人は事案を判断するのが遅く、先例を参照する。祭司は祭りを学のが遅く、経典に従って行う。工匠は技術を学ぶのが遅く、他者の技術を模倣する。民は牧畜に従事するのが遅く、老いた牧人に教えを請う。学びを必要としない君主がいるであろうか。学びを必要としない君主はいない。もし学ばない君主がいれば、その君主の執政はやり直さねばならない。…(中略)…学びを必要としない民がいるであろうか。学びを必要としない民はいない。もし学ばない民がいれば、家畜たちは群れを成して死に絶えてしまう」と、人間には学びが必要であると繰り返し強調している。学ばない人はおらず、学習しなければ物事はきちんと行えず、社会的矛盾を引き起こしかねない。人心の安定と社会の調和に不利であり、そのため〈マム〉は文化教育によって人を教化することを主張する。

〈マム〉は学習の重要性を強調する。欠けていることを学び、分からないことを学び、学んで実用する。「時に能弁な者が尊ばれる、故に講演する弁舌を学ぶ。時に勝った者が尊ばれる、故に勝つための武術を学ぶ。時に勇者が尊ばれる、故に闘う戦術を学ぶ。…(中略)…先人が教え導かねば、後人は学識が無くなる」と、文化によって人を教育し、人の知識を増やし、人の知能を啓発し、人の思想を教化し、人の行いを戒め、人の道徳性を養い、社会秩序を維持することを強調している。このように〈マム〉は道徳的人物を形成する過程において、重要な文化教育機能を演じている。人は生まれたときは無知な存在であり、知識は学習によって獲得するもので、それゆえ人の一生はずっと学習し教育を受けるべきだと〈マム〉は見なす。人は幼児期・児童期・少年期・青年期・壮年期・老年期などの異なる時期に、いくつかの共通知識を学ばねばならず、いくつかの共通原則や規範を遵守し、相応の道徳を備えることを〈マム〉は強調している。人を善に向かわせ、社会に好まれる道徳的人物を生み出すことを主旨としている。やっぴい事とやっぴいはいけな事、やるべき事とやるべからざる事を教え、やっぴい事ややるべき事をどのように行うべきか、やっぴいはいけな事ややるべからざる事をどのように行うべきかを教え、処世の道を述べている。人々の心の内の信念や習俗、社会の輿論を通して人々の行いを戒め、身を修め道徳性を養い、社会の公共的秩序を維持することを自覚するのである。人と人、個人と社会の間の相互関係に対して重要な働きを引き起こすことは、涼山彝族の社会生活が正常に行われ、社会秩序が相対的に安定する重要な精神的力なのである。

2.3.2. 徳治は〈マム〉の精髓であり道徳の最低線

彝語の“shot〔シヨ〕”は恥、辱めであり、“shot nyi〔シヨニ〕”あるいは“shot do〔シヨド〕”

は恥を知る、恥ずべき、徳を失う、面目を失うの意味である。人は恥を知り、何がすべきで何がすべきで無いかを知らなければ、真の「シヨニ」には成れない。「シヨ」は一種の羞恥心と道義感であり、すなわち好悪・善悪・是非を知る道徳的良心で、心の内の信念であって道徳の最後の最低線である。これは〈ママ〉の精髓であり道徳の最低線であって、主に倫理道徳思想であり、すなわち「徳治」思想である。もし徳がなければ、人たる資格を失う。男女の別を強調し、人がもし「シヨ」を超えてしまったら、恥ずべき事が行われる。それではその者には彝族社会で安寧に過ごすすべは無い。それゆえに〈ママ〉は徳によって人を信服させることを強調する。「人の品格と徳性はあまりに劣ってはいけぬ。もし君主の品格と徳性が劣っていたら、権力を司る印璽は手に入らない。もし姻族との間で品格と徳性が劣っていたら、家柄が釣り合う姻族を得るのは難しい。もし一族の中で品格と徳性が劣っていたら、血縁ある親族を得るのは難しい。人柄がもし品格と徳性が劣っていたら、知音を得ることは難しい。子孫や後代の品格と徳性が劣っていたら、友人の輪に入ることは難しい。姻族となるには良い品格と徳性に拠っている。友人となるには良い品格と徳性に拠っている。友人が尊重するのは良い品格と徳性である。敵と戦うには良い品格と徳性に拠っている。客人を宴席に招待するには上品で鷹揚であることに拠っている。」人の品格と徳性はあまりに劣ってはいならず、風紀を損なうことは行ってはならないことを強調している。〈ママ〉は道徳によって導き、倫理によって戒め、人々は自然と恥を知り、「恥ず」べき事をしないようになる。

〈ママ〉は盗みを恥じとし、妻を略取することを恥じとし、幼児を犯すことを最も恥とし、乱倫を最も恥ずべきとする。「品行の悪い男が、直系親族のなかで盗みを働いたり、また妻を略取したら、衆人の譴責にあい、最後は誰も助けぬ独り者になる。」「肥えた牛や羊を見かけても、絶対に家のものを盗んではならない。きれいな女性を見かけても、絶対に家の妻を拐かしてはならない。」「世の男は盗みを働こうと思つてはならない。他人のものを盗んだら自害する。近親のものを盗んだら宴を設けて詫言なくてはならない。縁戚のものを盗んだら牛を殺して詫言なくてはならない。窃盗行為は最も恥知らずなことであり、盗賊は人々が相手にしない。盗んだ金で盗んだズボンと交換して履き、ズボンはほころびて破れて腐る。むさぼり食べる者は家の中の食べ物を盗んではならない。肉を貪る者は鶏を盗んではならない。色を貪る者は幼児を犯してはならない。」このようにだまし盗んではならず、特に人倫関係の悪事をしてはならないと述べる。彝族社会ではいとこの兄弟姉妹間での婚姻や肉体関係の発生を厳禁して、もしいとこの兄弟姉妹間での肉体関係が発生したら、乱倫と見なされ死刑にされる。人妻と姦淫してもまた死刑にされるだろう。なぜなら恥ずべきこと・無恥なこと・荒淫を行うことは、彝族にとって倫理道徳の毀損であり、最も恥じるべき事柄だからであり、すでにこの世で生きる如何なる意味も無いということである。〈ママ〉は道徳教育を十分に重視し、特に最も基本的な乱倫に対する教育を重視している。人を陥れ、ごまかし、たぶらかし、奪い取るような悪事を後の世代がしないよう教育し、窃盗行為は最も恥じ知らずな行いだとする。そして子孫

に色を貪り幼児を犯さないよう教育する。幼児を犯す者に人格は無く、幼女と少女を犯す者は最も下劣な最も恥すべき行為である。不道徳な行為を行ってはならず、人倫関係に反してはならず、人として世で行う道徳の最低線に違背してはならないことを強調している。もし汚らしく醜いことをすれば、死後祖先たちはみなその者を自分たちの領域に入れさせないだろう。〈マム〉は道徳で人を感化し教育し、人の心を善良にさせ、恥辱を知り邪悪な心を無くさせる。乱倫関係についてまとめ、道徳的行為を規範化し、正しい倫理観念を打ち立てることを自覚させる。

2.3.3. 礼治は〈マム〉の大いなる徳目であり最高の法規

彝族は古来より礼を尊崇し、彝語の“pi [ピ]”とは礼であり、“pix yi [パイ]”とは礼儀・礼節・礼儀正しさ・雅やかさなどの意味を持つ。狭義の上では、礼は法という意味も備える。これは〈マム〉の大いなる徳目であり最高の法規で、主に礼儀や礼節の思想、すなわち「礼治」思想である。蘇克明によれば、彝族の「礼」の内包は極めて豊かであり、一種の儀式としてもよく、また人の風采や態度としてもよく、あるいは交友関係と人格修養でもある。「礼」は涼山彝族の行為の標準規則である。「礼」の社会道徳はまず秩序の樹立である。これは社会のそれぞれの構成員が必ず厳格に遵守し、違反してはならないものである。日常生活において、「礼」はあらゆるところに現れる厳格な秩序性であり、長幼の序はいかなる民族も遵守する原則ではあるが、涼山彝族はさらにもう少し厳格かも知れない⁴⁾。礼は道徳的行為であり、人々の行為に対して必要な節制と束縛を行い、人と社会の各種の矛盾を解消し、社会を調和させ動かす。「礼」は〈マム〉に非常に多く、年上を尊敬し、父母に聞き従う。人々が礼を以て客に対し、礼を以て互いに送り、礼によって君臣を送り、礼によって畢摩〔彝族のシャーマン〕を送り、礼によって女兒を送ること等を強調している。礼によって送らないと、どのようであっても宜しくない。人々が必ず礼を理解し礼を学び、礼をもってやりとりすることを勧めている。

〈マム〉は彝族の人間にとって三綱五常というべきものであり、彝族の家々で口にされ、女性や子供もみな知っている『論語』とも言える。涼山彝族は成文法が無い状況で、「礼」は涼山彝族社会の最高の法規となっており、人々の社会的行為を指導している。客人の接待・葬礼・婚姻・戦争・訴訟・交易・体育などの社会活動において、文章化されていない規定がある⁵⁾。「礼治」思想は〈マム〉の中で欠くことの出来ない一部分であり、「礼治」思想中に一致した道徳観念を形成している。例えば礼儀を尊重し、礼を至上のものとし、礼儀正しく、礼を以て人に対し、行いには礼があり、礼で無ければ行動せず、老幼を敬愛し、女性を尊重する、などである。これらの道徳観念は涼山彝族地区の社会生活を正常に動かし、社会秩序が相対的

4) ※蘇克明『涼山彝族哲学与社会思想』（四川人民出版社，1996年），第6頁。

5) ※同前書，第7頁。

に安定していることの重要な精神的力である。礼は各人の行為の規則であり、各家庭の生活の規則であり、さらには社会の法律規則である。礼を通して的確に管理することができ、道徳的管理を強めることについて言えば、礼は災いを未然に防ぐ重要な働きをすることができる。彝族社会の秩序には「礼」の維持が必要であり、彝族の道徳規範には「礼」の支えが必要である。

2.3.4. 善治は〈ママ〉の核心と道徳的宗旨

彝語の“nrat [ザ]”とは善、仁愛の意味であり、“nbop nrat [ボザ]”は思いやる善で“hxie mat nrat [ヘマザ]”は心中の善である。善の根本は心善でそれぞれの人間はみな善ある態度でなければならない。「ザ」は〈ママ〉の核心と道徳的宗旨であり、道徳的素養の理想の基準であり、社会の各構成員の思想的道徳の根本原則である。〈ママ〉は懲悪勸善を唱え、次のように言う。「賢人は同村の者を告訴せず、獵犬は同村の豚に噛みつかない。高く大きなラバや馬に乗ってはいならず、アナグマやヤマアラシの足跡を探す小事をしていなければならない。豪華な衣服を着てはいならず、腰間のシラミを潰す情けないことをしていなければならない。」心と行いは善であり、「決して悪い心根を懐いてはいならない。君主が悪い心根を懐いたなら、訴訟を紛糾させ君主自身を悩ます。臣下が悪い心根を懐いたなら、訴訟を紛糾させ臣下自身を悩ます。」親孝行については「孝を以て父母に接すれば、父母に目をかけられ可愛がられる」と述べ、善によって他人に接することについては「善を以て友人に接すれば、友人は友愛を報いる」と述べる。愛情をもって家族に接することについて「世の父親が息子を育てたら、息子はこれに応じて父を愛するようになる。世の母親が娘を育てたら、娘はこれに応じて母を愛するようになり、母親は娘を美しくするようになる。もし父親が息子を愛さなかったら、誰もその竹霊⁶⁾を世話しない。もし息子が父を愛さなかったら、身を寄せる場所が無い」と言う。権利と義務に従うことであれ、もしくは利益関係であれ、みな「仁愛」思想を強調し、人と人との間に愛がなければならぬと警告している。

〈ママ〉は人々が善心を持ち、悪心を捨てることを提唱している。例えば「賢者は心が黒くなることなかれ。もし賢者の心が黒くなったら、不当な死刑を判決し、優秀な若者が命を落とす。若者は心が黒くなることなかれ。もし若者の心が黒くなったら、賢者は事件を裁かない。」「他人を傷つけることなかれ。傷つけた人の子孫は栄えなくなる。人に対して心を黒くすることなかれ。その子孫は人が増えない。…(中略)…先祖の人たちは横暴であってはならない。先祖の人柄があまりに横暴すぎると、子孫や後の世代が必ずその巻き添えとなる」と述べている。同時に善には善で報い、悪には悪で報いることを主張して、「善には善で報いなければならない。善を以て善に報いなければ、誰も善行をしない。悪には悪で報いなければならない。」

6) 彝族には竹に霊が宿るという信仰があり、「竹霊(彝語ma ddur)」とは先祖の霊が宿る位牌を言う。特に竹根に死者の霊が宿るとされ、竹根と羊毛で作られる。「竹霊の世話をしない」とは「自分の死後に子孫が祭祀をしてくれない」という意。

悪を以て悪に報いなければ、しばしば悪事を働く」と言う。規則を守らず、秩序を守らないそれらの行為を懲らしめ、人々の仁善思想を強めている。善が小さいからといってこれを為すことはせず、悪が小さいからといってこれを為すことはせず、〈mam〉は一個人の「善言善行」を非常に重視している。善は社会における行為の基づく規則であり、善は各人の社会的良心を体現している。それは人々に心と行為の善を求め、善によって他人に接し、互いに助け合い、団結し友愛する。団結し親しみ合うことは個人の利益と集団の利益を保証し、社会の団結と友誼を維持することはそれぞれの責任と社会道德なのである。

2.3.5. 自治は〈mam〉の帰結であり最高の道德的境地

彝語の“lu nyi [ルニ]”とは「一人にいるときも心を正しく持つ」という意味だが、さらに正確に言えば「立德修身」であり、さらには「内面は賢であり外面は王」であることを言い、老子『道德経』中の「上善は水の若し」と同様のものである。彝族は有徳の人を「ルニ」と称する。それは人品と徳性が高尚で、徳が厚く器量が大きく、身を修め徳を養う典型で、一個人の最高の人品徳性の修養である。自覚と自省、一人でも心を正し瑣事をゆるがせにせず、身を修め徳を養い、誠実に信義を守り、私欲に打ち勝ち、名利に淡泊で、正々堂々とした人柄、勤勉誠実に物事を行うことを、「ルニ」は人々に要求する。ある人が「ルニ」となるには、自覚して各面から絶えず身を修め徳を養わねばならない。〈mam〉は人々に勤労で勇敢である事を求める。「物事を処理することに長けていれば人も財物も盛んであり、牛を引くことに長けていれば耕した畝はまっすぐであり、耕作に長けていれば収穫物は豊かであり、少しずつ蓄えることに長けていれば家は富裕である」と言う。誠実で信義を守ることについては「人と接し物事を処理するには誠心誠意であらねばならず、人に話すには嘘を話してはいけない」「世に在るときは誠を以て近親を遇し、世に在るときは誠を以て遠い親戚を遇する。君主が誠でなければ賊と区別は無く、調停人が誠でなければ歩く屍と区別は無く、若者が誠で無ければ災いを引き起こす。もし姻戚が不誠実であれば、仲人が話を伝え聞いていざこざが起きる。…(中略)…誠ならざることの内容はこれらであるが、実はまだこれらに止まらない」と述べる。法を遵守することについては「牛羊がきちんとしていれば、投石はそれらを打たない。去勢した鶏がきちんとしていれば、雄鶏はそれを啄まない。去勢された牛がきちんとしていれば、雄牛はそれに角を突かない。人がもし決まりを守っていれば、災いは彼を悩まさない」と言う。定規とコンパスがないと四角や丸が書けないように、規則を遵守してこそ無事平穏であり得る。「ルニ」は個人が自己の価値を実現し「一人にいるときも心を正しく持つ」境地の内在的必要性である。

人々は道德における「ルニ」に到達するために、絶えず自身の道德的修養を育み、道德に拠って自覚し自律し、最後は「自治」に到達する。〈mam〉は財貨を貪ってはいけないことを強調して以下のように言う。「好漢は財貨を貪れば名望が墜ち、くだらない人間は肉を貪ると名

声が墜ちる。一時の財を貪ってはいけない。一生の富を考えねばならない。一日の食を貪らず、一生の食料を考えねばならない。」他人を誹謗してはいけないことについては「姻族の家に座ってはならない、自分の家の親族を協議するのではないからだ。酒壺の隣に座ってはならない、一人だけで壺のなかの酒に酔うからだ。言葉はついには伝わっていき、肉を食べたことが秘密にし難いと同様だ」と述べる。更に軽佻浮薄であってはならないと説き、「決して浮薄な人に学ぶことなかれ。それらの浮薄な人々は、腰間に必ず笛を刺し、手には終始口琴を握っていて、このような人はやっかい事を引き起こすことが大好きだ」と言う。軽佻浮薄な人に学んではいけないことを強調し、自身は更に浮薄であってはならない。人が浮薄であれば“lu ap nyi [ルアニ]”であり、すなわち修養無く、道徳品行ともに悪く、人品が劣っていることとなる。人々の道徳が「自治」に到った時、自分が自分の思想を規定し、自分が自分の行為を規範的にし、心に畏敬があり、言葉に戒めがあり、行いに節度があるようになる。「ルニ」は外貌の落ち着きのみならず、心持ちを穏やかにし、心を至善の状態に到らせ、社会への関心を持つ。それは修身養徳を重んじ、謙虚で穏やかで、言動は適切であり、自律自省を自覚し、一人でも心を正し瑣事をゆるがせにしない。〈mam〉は道徳的修養によって心中の信念が自己の行為を規範的にし、自分で反省し自分で戒める。「一人でいるときも心を正しく持つ」という境地に達することは、社会の思想道徳を打ち立てることをより強め、調和した社会を造り、社会の長期安定を促進することに重要な意味を持っている。

3. 結語

彝族の〈mam〉は勸善懲惡・人々の平等・老幼を敬愛すること・女性の尊重・幼児を姦淫しないこと・孝行を尽くし恩に報いること・礼儀正しくあること・礼を以て人と接すること、誠実に信義を守ること、徳を以て人を心服させることなどを強調している。これらの原則と規範は、現在であれ過去であれ、明確な民族的特色を持っていて、永遠に色褪せない価値を備えている。社会を管理する背景において、〈mam〉文化は彝族自治区の倫理道徳の創出に素晴らしい源を提供し、民族の精神を鍛え、民族と社会の責任感を引き上げ、社会の風紀を改善し、社会の調和を維持し、人々の道徳水準を引き上げることに重要な意義を持つ。〈mam〉は彝族にとって、最も深厚で最も持久性に富んだ力であり、彝族社会が等しく認める倫理規範・道徳観・価値観・人生観・氏族観・社会観である。〈mam〉中の核心たる思想は「教育・廉恥・礼節・仁善・修身」であり、それぞれ「教育を優先し、道徳を至上とし、礼儀を根幹とし、思いやりを本とし、社会に配慮する」といった価値観を強調している。これは彝族社会の調和・安定・発展を促進する力となる。〈mam〉は人と人、人と自然、人と社会の間を調節する中で積極的な作用を発揮し、深遠な影響を生み出している。私たちは〈mam〉の道徳教育の重要性を正確に認識し、その精華を吸収し、その糟粕を剥がし、古きものを現代のために用い

彝族〈瑪牧〉文化における道德教育思想

る。社会が転換しつつある時期に、これを彝族自治区社会の道德教育思想樹立のために用いる。〈マム〉は彝族の優れた伝統文化の精華であり、〔文治・徳治・礼治・善治・自治の〕「五治一体」の管理思想を掘り下げることは、現在の彝族の優れた文化に寄与し、彝族自治区社会の管理に積極的な意義を持つ。更には中国が法治社会を作りつつあるなかで、道德的問題の解決が有益な新視点を提起するものである。

参考文献

馬鑫国・張徳華編著『勒俄瑪牧導読教程：漢彝対訳』（民族出版社、2014年）

本文中の『マム』の引用は全て本書に拠る。